

平成25年度「みえの現場・すこいやんかトーク」(玉城町)の概要

8月6日(火)に玉城町の玉城町保健福祉会館で「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、玉城町ノーバディーズパーフェクト講座で学んだ仲間の皆さん7名の方にお集まりいただき、活動内容や活動をして良かったこと、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

参加者の皆さんから、以下のようなご意見をいただきました。

- ノーバディーズパーフェクトに参加したことで、他人にも積極的に話せるようになり、仲間もできたのでよかった。仲間と連絡先を交換しているので、知っているだけで精神的に安心する。今でもノーバディーズパーフェクトの効果が続いている。
- 家の中で子どもと二人でいると、気持ちが煮詰まってくるが、しなければいけないことは日々あるので、そのことに気がつかない。
- 託児が無料でお願ひできるので、安心してノーバディーズパーフェクト講座に参加できる。
- ファシリテーターの存在がすごく大きい。メンバーだけだと堂々巡りになりがちだが、ファシリテーターの方が参加者全員に気を配り、話を進めてくれる。
- メンバーが先週1週間の出来事について、みんなに話すときには、時間オーバーということがよくあり、それぐらい充実している。話をすることによって悩みを共有でき、自分の精神が安定するのが良くわかり、子どもも安定する。

- それぞれのお母さん方が、とてもすごい力を持ってみえるので、ファシリテーターは、ただちょっと引き出すだけで、お母さんたちがどんどん変わっていく。
- ノーバディーズパーフェクト講座の中では下の名前でお互いを呼び合うので、本当に個人の付き合いができるので良かった。
- 2時間子どもと離れて話をするだけで、すごくストレス解消になり、子どもにもやさしく向き合える。
- ファシリテーターは、母親の持つ力を引き出すことが仕事である。親同士が知恵を出し合って学び、気づきながら子育てをしていくことが大切で、母親自身がどんどん変わっていくのが実感できると嬉しい。この講座では、自分たちもエンパワーメントされる。
- ノーバディーズパーフェクト講座を開きたいという要望に、町がすぐに体制を整えてくれたおかげで、すでに7期生まで続けられていることが嬉しい。
- ファミリーサポートは病気のときは預かってくれないし、職場も病気だといって、すぐに帰れるときばかりとも限らないので、そういう制度がもっと整えばいいと思う。
- 職場から受けるストレスがなくなれば、子どもに向かうストレスも少なくなると思うので、そういう面の企業側の体制が整えばいいと思う。
- 実家が遠く、気軽に預けられない状態にあるので、どうしても必要な人のための託児があるとありがたい。
- 一人住まいのお年寄りのところへお食事を届けるサービスがあるが、つわりで寝込んでいて、動けないときなどにもそういうサービスがあればいいと思う。
- 家族だけでは育児が大変なときがあるので、もっと子どもを預けられる施設が増えてほしい。例えば、産褥期の子どものデイケアサポートや、専業主婦向けの託児サポート、シルバー人材派遣のような子育てをしていても働くことができる場があればいい。
- 県にも親ナビというのを進めているが、親ナビは1回限りの講座である。6回を通すことで皆さんが本音で語り合えると思うので、検討いただけたらと思う。
- 産褥期に、家族みんなが一緒に泊まれて、1週間でも2週間でもそこで過ごせたら、本当に安心して子育てができると思う。

【知事の発言】

皆さんからのご意見を受け、知事からは次のような発言がありました。

- 児童虐待の事案はいろいろ検証しているが、煮詰まっていく様子や拒否感が出てしまう要素などに気づけたのはすごく大事なことだと思う。
- 特に病児保育は県内でも進めていこうとしている。国の制度なども活用しながら、しっかり人材、場所の確保をしたい。
- 育児休暇を終えたばかりの方の働き方については、企業への啓発など力を入れてやっていきたい。



【玉城町ノーバディーズパーフェクト講座で学んだ仲間の皆さんとは】

ノーバディーズパーフェクト“完璧な親なんていない”プログラムを受講した仲間で、安心して悩みや関心について話し合い、学び合いながら、「みんなで子育て」の関係づくりができることを目的とし、実践している皆さんです。